

せいしゅ し と げんこうろく
《聖書》使徒言行録 2:14, 36-41

に ほん こらい しんとう ぶっきょう
日本には、古来より神道や仏教があり、
おお ひとびと すく みち しん
多くの人々が救いの道として信じてきま
きたただけでなく、ヨーロッパの文化と一
しゅ はい どうじ し はいしゃ
緒に入ってきました。当時の支配者たち
が、キリスト教を受け入れたのは、純粋
あたらしゅうきょうう い
に新しい宗教を受け入れたかったという
いっしゅ はい ぶんか う い
よりも、一緒に入ってきた文化を受け入
れたかったのです。キリスト教の禁教令
しゅうきょう きんし こと
にしても、宗教そのものを禁止する事が
もくてき きょうりょう はい
目的ではなく、キリスト教を利用して入
つてくる政治勢力の支配を押しやる事が
もくてき おも
目的であったと思われます。

すく みち
救いの道には、これでないといけない
ひと
というものはありません。ある人にとっ
ぶっきょう し ぜん う い
ては仏教が自然と受け入れられますし、
ひと きょう し ぜん う
ある人にとってはキリスト教が自然と受
い とくてい しゅう
け入れられます。このように、特定の宗
きょう すく みち い
教だけが救いの道だとは言えません。

きょう れきし なか じぶん しゅうきょう
キリスト教の歴史の中で、自分の宗教
ゆいいつ すく みち こと しゅ
だけが、唯一の救いの道だという事を主

ちゅう おお ひとびと はくがい
張し、多くの人々を迫害してきました。

だい こうかいぎ
しかし、第2バチカン公会議において、
かんが まちが こと みと
こうした考えは間違いであった事を認め、
たしゅうきょう わ かい
他宗教との和解につとめるようになりま
した。

しんじや おお ふ
キリスト信者の多くは、たまたま触れ
しゅうきょう きょう れい
た宗教がキリスト教であったという例が
おお げんじつ せいかつ むす
多いようです。現実の生活との結びつき
かくじ ふ
で、各自が触れやすいもの、あるいは、
じ ぶん みち み
よりよく自分の道を見つけやすいものを
えら
選ばばよいのです。

すく みち こ じんてき
救いの道を個人的なものととらえてい
ひと おお きょう こ
る人も多いですが、キリスト教では、個
じん すく きょうどうたい はい こと きょう
人の救いではなく、共同体に入る事が強
ちゅう せんれい たん こ じん
調されています。洗礼は、ただ単に個人
つみ きょうかい
の罪をゆるしてもらうだけでなく、教会
きょうどうたい はい ひ せき
共同体に入る秘跡なのです。

せんれい せいれい めぐ う
洗礼によって聖霊の恵みを受けたキリ
しんじや ふくいん
スト信者は、イエス・キリストの福音に
こた し めい う じ ぶん
答える使命を受けます。自分さえよけれ
かんが ひと
ばいいという考えではなく、すべての人
びと ひと かみ めぐ う
々が等しく神の恵みを受けられるように
はたら
働かなければなりません。

ふっかつせつだい しゅじつだい ろうどく ねん たきの
復活節第4主日第1朗読A年(滝野)